

大阪母子医療センターは40周年を迎えます

当センターは本年10月に40周年を迎えます。1981年に大阪府の周産期診療の基幹病院として“大阪府立母子保健総合医療センター”という名称で開設されました。10年後に小児医療部門と研究所が設立され、小児病院としての診療体制が整いました。2017年に“大阪母子医療センター”に改名され、2018年には大阪府から小児救命救急センターの認定を受けました。子どもが成長

するように当センターもこの40年間に発展してまいりました。これらもすべて地域の医療関係者の皆さまのご支援の賜物であり、心から御礼申し上げます。



副院長 鈴木 保宏



さて、この40年間に医療の進歩はめざましく、その中で多くの新しい医療分野が生まれてきました。当センターにおきましては在宅医療と移行期医療がその代表です。開設当時にはNICUでは未熟児の呼吸障害（IRDS）に対して人工呼吸管理は行っていましたが、在宅人工呼吸器を使用して生活を行うことなどは誰も想像しなかったと思います。当センターでは1996年に神経・筋疾患の患者さんに初めて在宅人工呼吸器が導入されました。その後、2000年代後半からその数は急増し、現在では100台以上の人工呼吸器が在宅で稼働しています。小児期発症慢性疾患を有する患者の移行期医療も小児科全体の重要な課題です。大切なことは患者さんを成人診療科に転院させることなく、患者さんにとって質の高い移行期医療を提供することにあります。成人医療機関に完全に転院することが困難な患者さんにも当センターと成人診療医療機関と併診することで最良の移行期医療を提供したいと考えています。当センターは大阪府の委託を受け、2019年4月から大阪府移行期医療支援センターとしての事業にも取り組んでいます。是非、一度ホームページ（<https://ikoukishien.com>）でその活動内容をご覧くださいと思います。

現在の医療では地域医療連携ネットワークは重要なキーワードとなっています。在宅医療と移行期医療という新しい分野でも診療科と職種を超えた地域医療のネットワークの構築は不可欠であります。患者さんはこのネットワークにより支えられていると言っても過言ではないと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。最後に、新型コロナウイルス感染症で大変な日々が続いておりますが、1日も早く収束し、再び顔の見える医療連携に戻ることを願っております。



基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

当センターでは、MEセンター（臨床工学部門）に所属する臨床工学技士が病棟、手術室などで生命維持装置（人工呼吸器、体外循環装置、血液浄化装置）の操作や管理、心臓カテーテル検査や不整脈治療（心臓ペースメーカーやアブレーション）に対応し、医療機器（呼吸器、ポンプ類、モニターなど）の中央管理を行い、24時間体制で診療支援と医療機器使用時の安全確保を担っています。

新生児から成人までの患者さんの呼吸管理を筆頭に、血液浄化を要する病態には血液透析や血漿交換を、呼吸器感染症による重症呼吸不全や、劇症型心筋炎などによる高度循環不全の患者さんの集中治療において全身状態の破綻が危惧される病態ではECMO（体外式膜型人工肺）による生命維持を行うなど、医師、看護師と一緒に協力して治療をサポートしています。

また慢性呼吸不全の患者さんに在宅人工呼吸器を導入する場合は、患者支援センター（看護外来）や関連他職種、地域の先生方と連携して、患者さんとご家族が人工呼吸器を安全に使用するために、使用法や回路の組み方などを習得し自己判断による対処ができるまで指導を行い、退院後のご相談にも対応しています。

今後ともよろしくお願いいたします。

（MEセンター 副センター長（技師長） 澤竹 正浩）



MEセンタースタッフ

看護外来 （在宅医療 支援）

の 紹 介

看護外来（在宅医療支援）では、医療的ケアを必要とする患者さんやご家族への支援として、入院中から関わり、退院後の生活がスムーズに行えるように退院支援を行っています。医療的ケアが必要な患者さんは、2021年7月で743名になり、中でも在宅人工呼吸器を要する患者さんは100名を超えました。このような患者さんが地域で生活していくためには、入院中から多職種での支援が必要となります。当センターには、「在宅支援病床」があり、初めて医療的ケアを導入した患者さんが、安心して地域で生活できるよう、医師や病棟看護師、在宅支援担当看護師、ケースワーカー、心理士、保健師などの専門スタッフが、患者さんやその家族に対して医療的ケアの獲得、退院に向けた支援を行っています。その中で在宅医療支援担当看護師は、ハブとなる役割を担っています。



退院後も継続的に、患者さんの成長や発達に伴う問題や、長期的に養育する中で生じる養育者の問題など、患者さんやご家族に相談してもらえるよう関わっています。

現在、2018年から運用している地域診療情報連携システム（南大阪MOCOネット）で地域の医療機関と連携ができるようになり、入院中から積極的に繋がるよう取り組んでいます。今後は、それを活かし、双方向での患者情報の交換等が行われ、患者さんやご家族のために地域の方々と連携した支援を強化できるようにしていきたいと思っています。

（患者支援センター 副看護師長 江口 奈美）



看護外来（在宅医療支援）スタッフ

当センター 研究所 免疫部門、柳原 格部長 を中心とする研究チームは、改良した耐熱性逆転写酵素、独自の DNA ポリメラーゼの組み合わせで、高感度に新型コロナウイルスの核酸を検出するキットを開発しました。

本開発キットは、新たな感染症や、遺伝子の違い（変異）にも柔軟に対応することができ、研究用試薬として新型コロナウイルスの変異型の検出に利用しています。

解析で得られた情報は、次世代シーケンスによるゲノム情報とあわせて、厚労省「積極的疫学調査及び変異株に関する情報提供等への協力」要請に基づき、大阪府感染症対策企画課を通じて厚労省へ提供するとともに、国際的な SARS-CoV-2 のゲノムデータベース（GISAID）にも提供しています。

産科 Web 予約を始めました

リスクのない妊婦さんが産科を受診する際、スマートフォンでのWeb 予約が可能となりました。（システムの都合上、ご予約いただける日程は最短で3日後からとなっています）。



予約方法

<https://online.medicalnote.jp/institutions/3386b0c4>
上記にアクセスし最下段の「このメニューで申し込む」より入力
→ 「仮予約」
→ 当院より電話で連絡し、確認・調整の後「予約確定」

自由診療
産科の初診予約
【ご注意】
●診察情報提供書（紹介状）をお持ちの場合は、患者支援センター初診予約係までFAXでお申込みください（Web予約はご利用になれません）。
●Web予約時点では、「仮予約」となります。後日、当院からお電話等でご連絡させていただきます。確認・調整の後、「予約確定」となります。
価格（税込）
出産費用の前払金（予約金） ¥0
[このメニューで申し込む](#)

なお、他の医療機関からの診療情報提供書をお持ちの場合、Web 予約はご利用になれません。



大阪移行期医療研修会の開催報告とお知らせ

患者支援センターでは、大阪府からの委託を受け大阪府移行期医療支援センターを設置し、移行期医療について知っていただく研修会を主催しています。

去る5月15日（土）「大阪における成人ダウン症患者の移行期医療を考える！」、9月4日（土）「大阪における先天性心疾患の移行期医療を考える！第2弾」を開催しました。移行支援について小児期・成人期それぞれの立場から講演いただき、多くの方の参加がありました。

次回は以下のとおり Web 開催の予定です。

日時：2021年11月20日（土）15:00～17:00
テーマ：「大阪における小児がん経験者の移行期医療を考える！」

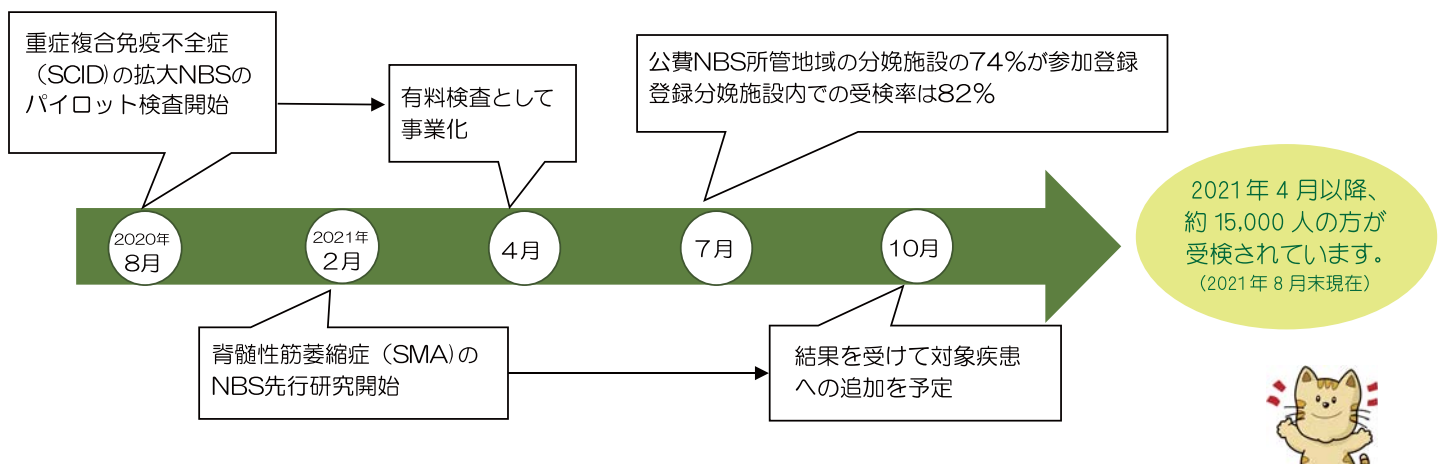
対象：医療従事者

詳しくは、QRコードをご確認ください。



拡大新生児マススクリーニング（拡大NBS）検査の実施状況について

重症複合免疫不全症（SCID）の拡大NBS検査を2021年4月より有償で実施しており、今後は脊髄性筋萎縮症（SMA）の検査も実施する予定です。



ぜひ拡大NBSの参加施設に登録いただき、普及へのご協力とご活用をお願いいたします。

第12回きつずセミナーを開催しました

当センターのきつずセミナーは、12年目を迎えました。今年も昨年同様Zoomによるオンライン開催となり、全国から延べ204名の参加がありました。中には海外からの参加もありました。オンラインのみの開催は残念ですが、実地開催では参加が難しい遠くの方にも参加していただけることがメリットの一つです。

一番人気は医師コースで、今回は、

- ★聴診器の使い方
- ★平常時と運動後の心電図の変化
- ★手術を開始するまでの手洗いから手術までの流れ
- ★ドクターカーツアー

など、医師の仕事を実験していただきました。



来年こそは、病院で子ども達と直接交流できることを期待したいと思います。

ボランティアのご紹介

新型コロナ感染の蔓延により昨年からはボランティアの活動が大きく制限されております。絵本の読み聞かせやピアノ演奏、きょうだい預かりなどの活動が中止となる中、園芸ボランティアの皆さんは活動を続けてくれています。苗の植え付けなど多人数での活動は控えていますが、猛暑の中、お花の水やりのために毎日来院してくれています。



当センターの草花は猛暑にも関わらず夏枯れすることなく、元気いっぱい患者さんを迎えています♪

2021年度イブニングセミナーのご案内

医療機関の皆さまに当センターを知っていただくことを目的に開催しています。ご参加をお待ちしております。

- 【対象】 医療関係者
- 【時間】 17時45分～19時00分
- 【参加費】 無料
- 【事前申込】 必要

ZOOMによる
オンラインセミナー
です。

各開催2日前までに下記アドレスに以下の項目を明記のうえ、お申込みください。

- ・受講希望日
- ・職種
- ・所属先
- ・参加者名(フリガナ)

【申込先】 大阪母子医療センター 患者支援センター
Email: chiren@wch.opho.jp
お申込みいただいたメールアドレスに開催前日までに参加URLをお送りします。

※大阪府医師会生涯教育研修システム1単位に認定されます。ご希望の方は以下の項目についてもご記入ください。

- ・チケット番号(地区番号2桁+医籍番号6桁)
- ・所属郡市区等医師会名

※テーマ、講演者については変更の可能性があります。ホームページをご確認ください。

日程	テーマ	担当部署	講師
2021年			
10月14日(木)	頭部外傷	脳神経外科	山田 淳二
11月10日(水)	小児慢性心不全の緩和ケア	小児循環器科	森 雅啓
12月9日(木)	小児の睡眠時無呼吸	呼吸器・アレルギー科	錦戸 知喜
2022年			
1月5日(水)	遺伝カウンセリングと遺伝カウンセラー	遺伝診療科	松田 圭子
2月3日(木)	小児のてんかん～診断と治療～	小児神経科	柳原 恵子
3月3日(木)	小児期発症疾患患者に対する小児婦人科の診療	小児婦人科	川口 晴菜

交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)

FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)

FAX: 0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail: chiren@wch.opho.jp

医療者対象
ホットライン
(※24時間受付直通)

PICUホットライン
☎ 0725-56-1070

小児がん・白血病
ホットライン
☎ 0725-57-7677

心疾患ホットライン
☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。